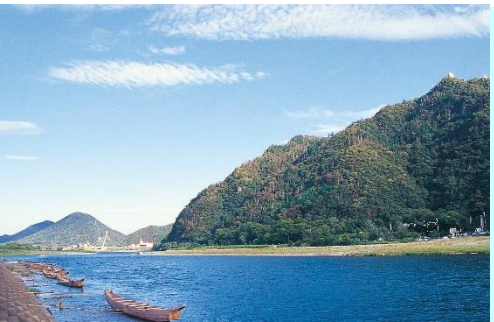


中学校国語 五七五でつなぐ 岐阜市の自然・文化



見て、見て。水面がきらきら光っているよ。
いつ見てもきれいな川だよ、長良川って。

金華山だって、自然がいっぱい。春は桜、秋は紅葉・・・。虫の声や鳥の鳴き声。四季折々の自然を感じるよ。

岐阜市は、美しくて豊かな自然に囲まれているんだね。そういえば、長良川で行われている鶺鴒について作られた俳句があるんだよ。知ってる？



昔も今も多くの人に親しまれている、清流長良川。

その長良川で行われている文化、鶺鴒。鶺鴒を題材に作られた俳句は数多くあります。

俳句とは、「季語」を入れながら、基本「五七五」の十七音で感動を伝える、「定型詩」という決まった形式のある詩の中では世界でいちばん短い詩です。

「季語」は季節を表す言葉です。例えば、「鶺鴒（うかい）」「鶺鴒舟（うぶね）」は、夏の季語です。

おもしろうてやがて悲しき鶺鴒舟哉 芭蕉



これは、一六八八年、松尾芭蕉が岐阜を訪れたときに作った俳句です。

どのような情景が浮かんできますか。
どのような思いが感じられますか。

【句意】

煌々とかがり火をたいた何そうもの鶺鴒舟で、
鶺鴒が鶺を手綱でさばいて鮎をとりながら、
川上から川下へと流れ下っていく鶺鴒の様子は
とても趣がある。だが、鶺鴒が終わり、
かがり火が消えて鶺鴒舟が去っていくと、
もの悲しい気分になるものだ。



鶺鴒の他にも、鶺鴒や鮎、長良川や金華山など、岐阜の自然や文化を題材として作られた俳句があります。

鶺鴒の川の迅さよ時のながれより 山口誓子



天そそる金華の城や風光る 大野万木

ずっと昔に作られた俳句なのに、その時の情景や作った人の思いが伝わってくるような気がするよ。

たくさんの人が、岐阜の自然や文化を大切に思っていて守ってきたんだろうな。今と昔はつながっているって改めて思ったよ。

わたしも、岐阜の自然や文化を題材に俳句を作ってみようかな！



同じ場所でも、季節やその日の天気、その時の自分の気持ちなどによって、見えるものや感じ方は違ってきます。

長良川、金華山そして鶺鴒など岐阜市の自然や文化だけではなく、身近な自然や地域の文化などにも目を向け、じっくりと浸り、考え、そこからわき出た思いを言葉にすることで、自分らしい五七五になります。

昔から今、そして未来へと、岐阜の自然や文化やそれらから感じる思いを、五七五でつないでいけたら、何だか素敵だと思いませんか。

◎わたしの五七五

